

中学校 国語科 学習指導案

指導者 増田 知子

日 時	令和5年8月29日(火) 第2時限 9:40～10:30
場 所	多目的教室
学年・組	中学校3年A組 40名
単 元	「百科事典少女」 小川洋子 (『新しい国語3』東京書籍)
目 標	1. 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにするとともに、文章の種類とその特徴について理解を深める。 (知識及び技能 (1) イ・ウ) 2. 文章の種類を踏まえて物語の展開の仕方などを捉え、文章全体への理解を深める。 (思考力、判断力、表現力 Cア) 3. 物語の表現の仕方が文章の内容を印象付ける上でどのような効果を上げているかを考える。 (思考力、判断力、表現力 Cウ)

指導計画 (全5時間)

第1次 (1時間)

- ①全体を黙読した後、適宜、語句の意味を確認する。
- ②Ⅰ登場人物の人物像を読み取るための問い、Ⅱ場面の構成・展開に関わる問い、Ⅲ表現の仕方に関わる問いを考え、段落ごとにあげてプリントに記入して提出する。

第2次 (3時間)

- ①第一段落を読み、Ⅰ人物の考えや人物同士の関係を捉えるための問い、Ⅱ場面の構成・展開に関わる問い、Ⅲ表現の仕方に関わる問いを考える。【本時】(1/3時)
- ②第二段落を読み、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに関わる問いを考える。
- ③第三段落を読み、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに関わる問いを考える。

第3次 (1時間)

- ①第1次で自分があげた問いに対する答えをプリントに記入する。
- ②自分があげた問いの評価を行う。

授業について

「百科事典少女」は、小川洋子「最果てアーケード」所収の短編である。アーケードの読書休憩室でRちゃんと「私」は一緒に時間を過ごす。Rちゃんは「私」が愛読する物語を「うそのお話」と言い放ち、自分は「本当のお話」である百科事典を読み進めていくが、最後まで行き着くことはできないまま病気で亡くなってしまう。その後Rちゃんの父親である「紳士おじさん」が毎日、百科事典をノートに写しにやってくるようになり、写し終わったところでこの物語は終わる。

物語の展開の中で、人物同士の関係、具体的には「私」とRちゃんとの関係、「私」と紳士おじさんとの関係、Rちゃんと紳士おじさんとの関係を読み取っていくことが文章全体の理解を深めることになると考えられるが、描かれた彼らの関係とともに気になるのが本文中に見られる百科事典の記述であろう。特に作品の最後が「ンゴマ」についての百科事典の記述で締めくくられていることにどういう意味があるのかは一読して気になる点ではないかと思う。それと関連して、「アッピア街道」の箇所をRちゃんが音読する場面が描かれているが、この場面の記述も合わせて、それらの表現の仕方がどのような効果を上げているか、授業で考えさせていきたい。この教材の前に学習した菊池寛「形」は言葉や設定はわかりにくい点もあったが短いお話で人物関係は読み取りやすかったと考えられる。それに比べると「百科事典少女」は文章量が多く、それぞれの関係も読み取りにくい点があると思う。まず人物関係を読み取ってから表現の仕方の効果について全体の構成を意識しながら考えていく展開にしたいと考えた。

これまで、「問いを立てる」授業の展開の仕方をいろいろと探ってきた。授業者に初読の後、段落ごとに問いを考えさせると同時に、全体に関わる問いを考えさせる。その後、段落ごとに読み進めてい

きながらその段落に関わる問いの答えを考えさせ、最後に全体に関わる問いを考えさせるという形を取ることが多かった。その時にいつも問題だと感じるのが、本文を読解しても答えの出ない、あるいは考える必要を感じられない問いをどう処理するかという問題である。グループで問いを絞らせたとしてもそのような問いが残ることもある。そこで今回は、自分のあげた問いに対して、学習後、その答えをプリントに書き入れるという学習を行い、自分の立てた問いに対する評価を行わせることにした。また、問いを考えさせる際に、Ⅰ登場人物の人物像を読み取るための問い、Ⅱ場面の構成・展開に関わる問い、Ⅲ表現の仕方に関わる問いという項目をあげて、単元目標2・3に繋がる問いが学習者から出てくるように試みる。

本時の目標

- 1.人物の考えや人物同士の関係を捉えて作品を読み解く。(思考力、判断力、表現力 Cア)
- 2.物語の展開や表現の仕方に着目し、文章全体への理解を深める。語注やその他の情報を整理しながら、作品にあらわれた言動の意味などについて考えて解釈する。(思考力、判断力、表現力 Cウ)

本時の評価規準（観点／方法）

1. 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにするとともに、文章の種類とその特徴について理解を深めている。(知識・技能／観察)
2. 読むことにおいて、文章の種類を踏まえて物語の展開の仕方などを捉え、文章全体への理解を深めている。(思考・判断・表現①／発問―応答)
3. 読むことにおいて、物語の表現の仕方が文章の内容を印象付けるうえでどのような効果を上げているかを考えている。(思考・判断・表現②／発問―応答)

本時の学習指導過程

学習内容	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
(導入) ・ 本時の学習活動の確認	・ 第一段落を読み、前時に考えた問いの中からいくつかを取り上げて考えていくことを伝える。	
(展開) 1 第一段落を音読し、問いを確認する。	・ 前時、個人であげた提出した問いの中で本時考えていく問いを全体で共有させる。	【知識・技能】(観察)
2 登場人物の人物像を読み取るための問いについて考える。	・ なぜ私とRちゃんは読書休憩室では仲が良いのに学校では何も話さないのか、等について考えさせる。	【思考・判断・表現①】 (発問―応答)
3 表現の仕方に関わる問いについて考える。	・ アップピア街道の説明をRちゃんが読み上げる記述があるのはなぜか、等について考えさせる。	【思考・判断・表現②】 (発問―応答)
4 場面の構成・展開に関わる問いについて考える。	・ なぜ物語をRちゃんのことではなく、紳士おじさんのことから始めたのか、等について考えさせる。	【思考・判断・表現①】 (発問―応答)
(まとめ) ・ 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	・ 本時で考えた問いの答えを個人で振り返り理解を深める。	

実践上の留意点

1. 授業説明

「問いを立てる」という学習活動は文学的文章で行うことが多い。授業を展開していく都合上、最初に段落に分けて、個人でその段落ごとの問いと全体に関わる問いを立てさせる。そうして一斉授業で段落ごとに上がった問いを中心に読解を進めていき、最後に全体に関わる問いの答えを考えさせるという流れで行う。しかし、読解しても答えが出ない問いを立てる学習者もいて、グループの中で問いを選ばせても、答えは出ないであろう問いがそのまま残ってしまう。そこでこのたびは、問いに対する答えを学習後に記入する枠を作って、答えを意識しながら問いを立てさせるという方法を取った。さらに問いについて自己評価する枠を作った。また「Ⅰ人物の考えや人物同士の関係を捉えるための問い」「Ⅱ場面の構成・展開に関わる問い」「Ⅲ表現の仕方に関わる問い」という枠を作って、問いを作る上での視点を提示した。

研究授業では、第一段落を読み、前述のⅠについては「なぜ私とRちゃんは読書休憩室では仲が良いのに学校では何も話さないのか」、Ⅲについては「アップピア街道の説明をRちゃんが読み上げる記述があるのはなぜか」、Ⅱについては「なぜ物語をRちゃんのことではなく、紳士おじさんのことから始めたのか」という、学習者から出された問いを中心に授業を進めた。

Ⅰでは最初にRちゃんと「私」の関係がわかる箇所を抜き出させて、学校での関係と読書休憩室での関係が異なることがわかるように板書にまとめ、Ⅰの問いについて考えさせた。学習者から出された「Rちゃんにとって心を解放できる場所である」「私もRちゃんの世界に入ってその時間を楽しんでいる」「二人の読書休憩室での秘密を守りたい」という発言を、「約束」という本文中の語をポイントにまとめた。最初に「二人は陰キャと陽キャで学校では接点がなかったから」という答えが出てきたのには、子どもたちの現実を見るようで複雑な思いにもなった。Ⅲの問いについては、「百科事典を読み終えるまでの長い道のりに喩えた」「『私』にとって印象に残ったから」という答えが出されたところで時間が来てしまい、Ⅱについての問いには本授業の中で触れることはできなかった。

2. 研究協議

研究協議では、学習過程について問いを作る上での視点としてあげた「Ⅰ人物の考えや人物同士の関係を捉えるための問い」「Ⅱ場面の構成・展開に関わる問い」「Ⅲ表現の仕方に関わる問い」のⅡとⅢについて、「ⅡとⅢは学習者にとっては曖昧なのではないか」「『表現の仕方』という表現では上手く意図が伝わらないのではないか、『描かれ方』という言葉の方がよかったのではないか」「Ⅲは『レトリック』とは違うのか」という意見や質問が出された。授業者としては「Rちゃんが読み聞かせるときの声に『小ぬか雨のようにひっそりして』という比喻が使われているが、これはどういうことを表しているのか」などの問いが出てくると考えて、「表現の仕方」という言葉を使った。表現と内容は切り離せないものであり、指摘していただいたように指示の言葉が曖昧では学習者に伝わらない。表現に注目させるための言葉の選択をよく考える必要があると感じた。

本時の授業について、「陰キャ・陽キャ」という言葉が出てきたことに対して、「Rちゃんは読書休憩室で本当に解放されているのか。大人なだけで陰キャではない」「自分たちに引きつけて考えているから能動的な読みといえるのではないか」などの意見が出された。また「Ⅲの問いは教材全体で考えないと難しいのではないか、段落ごとに分けるのではなく全体で問うのはどうか」と授業の展開についても意見をいただいた。この教材は長い文章なので、文章全体で問いを立てて読解していくということになると、Ⅰの人物の考えや人物同士の関係やⅢの表現に関する問いについては抜け落ちてしまう点が出てくると考え、段落ごとに押さえていく形を取った。しかし次は、段落ごとに区切らずに問いを立てさせ、出てきたものを分類して進めてみようと思う。また、枠を決めた方が問いを立てやすいと考えて枠を作ってみたのだが、実際に授業してみて、枠を作るなら慎重に作らないと逆に問いを出しにくくしてしまうことを実感した。